

支える会通信

JAL不当解雇撤回10.25大集会

1800名を超える結集で高裁判決勝利・早期解決にむけ闘いの強化を確認

台風に襲が懸念された25日、午後のJAL本社前要請から、国交省、裁判所、厚労省前での行動に続く、文京シビックホールでの10・25集会は満員でした。

全国一般東京労組ミューズ分会・柳瀬さんの司会でプログラムが進行しました。開会は全国港湾の糸谷委員長。次いで闘いのDVDが上映されました。

弁護団報告では上条弁護団長から「全国で取組まれた署名が高裁での証人尋問を勝ちとり、会社は当初解雇回避策を約束しながら組合の解雇回避に向けた提案を拒否し、解雇時点で新要員人員の人数以下であったのに解

会場一杯の支援・共闘！

発行責任者
 柚木康子
 大田区羽田
 4-10-4
 石井ビル3階
 TEL03(6423)7878
 FAX03(6423)7430
 メール
 sasaerukai@
 lemon.plala.
 or.jp

雇が強行された、まさに組合潰しの不当解雇だと立証したがJAL側は何ら反証ができなかった」と報告がありました。

各地からの挨拶は愛知の会と京都総評、大阪支援共闘。大阪から、30名で参加した、解雇争議はまず支援することだ」と心強い決意表明がありました。前日弁連会長・宇都宮健児さんは「司法の役割は人権を守ることだ、最後まで応援する」とエールがありました。

海外ゲストOCCCパイロット15人は制服姿で舞台上に勢ぞろいし、チャップマン委員長が激励の挨拶を行いました。励ます会の醍醐東大名誉教授は「そもそもこの裁判は不要だった、地裁判決は解雇をしないとまた沈没するとしたが、解雇によるコスト削減は0.13%に過ぎない」と地裁の誤りを指摘しました。

続いて闘う争議団が紹介され、ロックアウト解雇と闘うJMIUのIBM支部、郵政非正規の65歳解雇撤回を求める原告から闘い続ける決意が表明されました。



続いて壇上に勢ぞろいした200本近い組合旗のぼり旗は圧巻でした。その前でJAL原告らによるフェニックス合唱団他による「あの空へ帰ろう」の合唱が会場一杯に響きました。

共産党の穀田議員、吉良議員ほかの挨拶、社民党又市幹事長のメッセージ、国労石上委員長からの力強いメッセージが紹介

2014年を勝利の年に！ 支える会のメンバーを倍に！ 拡大に向けご協力を！

今年も残り僅かとなりました。JAL原告団は高裁での証人尋問をきっちりとやりきりました。その内容からは165人の解雇は不要であり、まさに企業の危機を奇禍として仕組まれた組合潰しの解雇であったことがはっきりしました。

まともな裁判官であれば事実の突き付けの前に地裁判決を維持することはできないだろうと普通の人間なら考えます。でも油断大敵です。地裁の原告証言もこれで負けるなんて考えられなかったのに不当判決でした。だからこそ12月の結審から早ければ来春かとも言われる高裁判決に向けた取組がとても大事です。

支える会は皆様のご協力での2年あまり原告団の闘いを応援してきました。しかし新規に賛同される方がいる一方、会員継続が繋がらない現実もあります。来年は高裁勝利判決を勝ち取るためなお一層活動の拡大・強化が必要です。是非3年目の更新も忘れずに、そして周りの友人・知人にも支える会への加入を広げて頂くようお願いいたします。

労働法制の全面改悪攻撃、特定秘密保護法の強行など課題はいっぱいですが、未来の子供たちに誇れるよう全国で運動を広げて行きましょう。2014年を希望の年に！

支える会事務局長 柚木 康子

介されました。いよいよ終盤、乗員組合・CCUの各委員長の決意表明では「ものを言える職場が安全を守る」と1日も早い原告らの復帰を求めました。

次の津恵国民共闘会議事務局より当面の行動の提起がありました。年内の大きなポイントは12月24日（客乗）、26日（乗員）の結審に向けた行動です。原告団山口団長、内田団長から「組合潰しの後押し判決は絶対認めない！JAL闘争は安倍政権の雇用破壊攻

撃に対する闘いであり、解雇撤回に向け法廷の内外で闘う。労働者の反撃で倍返し、解決の道筋をつけて復帰を果たしたい」と決意表明がありました。集会は乗員組合連絡会議・館野議長の提起で決議を確認し、MIC日比

野委員長の閉会で終了しました。盛りだくさんのプログラムが時間内に終わったのは奇跡的。準備をしてきた原告団と支援の皆さんのチームワークの成果です。

この集会の前段に後楽園駅前で婦団連他の呼び掛けで「JAL不当解雇撤回を！女性の行動」のリレートーク&署名も取り組まれました。

午後からの取り組みにも全国各地から結集していただきました。

大阪からは宣伝カーで



大阪教育合同大橋さん

駆けつけて来た大阪全労協・大阪教育合同労組の大橋さんから厚生労働省

前でJAL闘争支援の訴えがありました。

勝利判決をもぎ取るために頑張ろう！

この集会に向けて以下の支える会からメッセージをいただきました。有難うございました。

尚、メッセージは支える会の所でご覧になれます。
<http://sasaerukai.com/message/message.html>

JAL不当解雇とたたかう愛媛原告を支える会、JAL争議団を支援する熊谷の会、不当解雇とたたかう日航労働者を支える秋田の会、JAL闘争を支える京都の会、JAL闘争を支える新潟の会、JAL闘争を支える徳島の会、JAL闘争を支える音威子府の会、JAL闘争と連帯する兵庫の会、JAL闘争を支えるいはらの会

(順不同)

10・25集会に連帯する集会 各地で開催

徳島

10月16日18:00から徳島あわぎんホールにてJAL闘争を支援する徳島の会主催による、10・25集会に連帯する「JAL不当解雇撤回10・16徳島大集会」が開催され、150名が参加しました。オンザロードの合唱で始まった集会は、支援する会徳島の藤岡代表（自治労徳島県本部委員長）の主催者挨拶に始まり、富永徳島人権平和運動センター議長、山本徳島労連議長、中野国鉄闘争センター四国事務局長から連帯のあいさつがされました。

その後、JAL解雇撤回国民共同代表の金澤全労協議長による「JAL闘争の意義と私達の任務」の講演が約1時間行われ、この解雇の狙いと解決のために全国に支援組織を広げることの重要性が話されました。

原告団鈴木事務局長から9月に高等裁判所で行われた証人尋問について、愛媛在住の原告団林事務局長から原告団・職場の状況などそれぞれ10分ずつ訴えました。

徳島の会大谷事務局長（自治労徳島県本部書記長）から「支える会」への加入呼びかけ、物販・署名回収への協力、10・25集会への支援する徳島の会からの代表派遣など行動提起が行われ、会場から集められた3万3千円のカンパが藤岡代表から原告団に手渡されました。

徳島大集会の決議文を全農林の野村さんが力強く読み上げ、全員一致で採択しました。この決議

文は後日、東京高裁、国土交通省、厚生労働省に送られました。最後にがんばろうの合唱、団結ガンバロウ三唱で閉会しました。

当日会場では自治労の方々の多大なご協力によりJAL争議支援物販を行っていただき、約5万円の売りあげがありました。

兵庫

JAL闘争に連帯する兵庫の会主催により10月3日18時30分より神戸市勤労会館で開催され、50名が参加しました。「JAL闘争の攻防ライン」と題して佐野事務局長による地裁判決の分析と誤りが指摘され、今後の運動への結集が呼び掛けられました。

東京・三多摩

JAL支援三多摩共同主催により10月3日、国

分寺労政会館にて「JAL支援三多摩共同10・3集会」が開催され、30名が参加しました。

金澤国民共同代表の講演に続いて、原告の藤田由美子さんから20分の争議報告を行いました。当日会場カンパ¥1万7千370円、物販売上1万5千円をいただきました。

秋田

10月26日18時より秋田

平和労組主催の活動家養成講座の後、「秋田支える会10・25連帯集会」が開催され30人が参加しました。

鈴木原告事務局長より争議報告20分の後、平和労組事務局より争議支援要請が呼び掛けられ、元秋田教職員組合内藤委員長の団結がんばろうで閉められました。参加者より1万円のカンパをいただきました。

ILO再勧告

ILOからJALの整理解雇問題で再度勧告が出されました（2013年10月31日）。

ILO（国際労働機関）理事会は2012年6月に、JALの整理解雇がILO条約に抵触するとして、整理解雇を巡る労働組合と会社の協議を保障するよう日本政府に求める勧告を採択していましたが、今回日本政府に対する第2次勧告ともいえる勧告を採択しました。

今回の勧告は、JALが2012年に客室乗務員940人を新たに採用していることに注目し、それを踏まえた労使間の協議を求めています。

原告団・事務局紹介

岡田 敏章(埼玉県川口市出身)



子供の頃から夢であったパイロットになるために苦節10年。辛い訓練後やつと副操縦士になった1年半後に解雇されました。これほど人間の尊厳を貶め、人を不幸にする酷い施策は有りません。妻と中2の娘の為に、安心して働き普通の生活を送って行けるよう頑張ります。

城戸 圭介(神奈川県出身)



私は年齢基準で解雇されました。裁判で社員や裁判所、そしてお客様に対するJALのウソを元にな当解雇した「利益優先、安全軽視」のJALの姿勢は許せません。解雇自由な社会を作らせないためにも頑張ります。

黒崎 奈保子(北海道出身)



77年8月入社し、整理解雇されるまで33年5カ月勤続しました。84年長女、87年二女、95年三女出産後4週で復帰しました。後輩にも後を追ってほしく娘3人抱え国際線に必死で乗務してきました。02より母子家庭になり、退職選択は不可能でした。

遠藤 洋子(山口県下関市出身)



高校卒業後、夢を持って入社し、35年間働いてきました。組合のおかげで労働条件も改善され、結婚後も出産後も仕事を続けることができ、定年まで働くつもりが、不当に解雇されました。撤回されるまで頑張ります。

宍戸 富美子(福島市出身)



幼少の頃、機影を見上げCAに憧れていました。憧れが現実にな

り60歳の定年まで仕事を続けたいと思っていたのに解雇されました。多くの方々にも助けられている事に感謝し、励ましを支えに空に戻るまで頑張りたいと思っています。

飯田 幸子(茨城県出身)



解雇されて多くの方との出会い、世の中のいろんな問題が身近かになりました。そして、これまでが何と井の中の蛙だったことかと反省しきりです。多くの方に支えていただいた3年間でしたが、これからも闘い抜きます。

宝地戸百合子(神奈川県小田原市出身)



日本航空は私たちがを長きに渡って差別し続け、最後に解雇という形で追い出したのです。闘いは厳しいですが、多くの支援者の温かさとともに、夫の「応援しているよ」の一言で、

最後まで頑張ろうという気持ちになれました。

藤田 由美子(長崎県出身) 事務局



生き甲斐を持って働いてきた38年間でした。自分の人生が不当な解雇によって断ち切られたままになっていく理不尽さに言葉にできない憤りを覚えます。私達が職場復帰する事が、働く者を大切にする社会への一歩につながるとの思いで闘っています。

鈴木 圭子(東京都出身) 事務局



子供の頃から山形県米沢市出身の両親から上杉鷹山の「為せば成る。為さねばならぬなにごとも。為さぬは人の為さぬなりけり」と言われて育ちました。その精神でこんな無謀な解雇を許さず、勝利解決めざして頑張ります!

《今後の日程》

12月24日 客室乗務員裁判結審

9時00分 裁判所前宣伝

9時40分 傍聴券抽選

10時半 口頭弁論

12時 13時半 報告集会 (日比谷図書館)

14時 日比谷中幸門 水谷橋公園までデモ

26日 パイロット裁判結審

行動内容は報告集会まで

24日同様、デモは無し

18時半 大阪なんば高島屋前宣伝行動

2014年

1月9日

18時 日航本社前 宣伝行動

17日 12時 16時

裁判所前座り込み

19日 提訴3周年宣伝行動

12時 有楽町イトシア前 宣伝、13時半 水谷橋公園出発デモ

20日 22日 12時 16時

裁判所前座り込み

29日 全国一斉宣伝行動

18時 立川北口、新宿南口、池袋東口、錦糸町北口、品川港南口、

18時半 有楽町マリオン前 大阪なんば高島屋前、福岡未定。